

じよしどうろ 国道440号地芳道路が全線開通

— 松山・中村河川国道事務所 —

松山河川国道事務所及び中村河川国道事務所の両事務所で権限代行直轄事業として整備を進めてきた「国道440号地芳道路」の未供用区間4.0kmが完成し、平成22年11月13日(土曜日)14時より供用を開始しました。

今回の開通により、これまでの部分供用区間4.9kmと合わせて事業区間8.9kmが全線開通となりました。

当日は、供用に先立ち、四国地方整備局及び愛媛県、高知県、久万高原町、梶原町の主催で午前10時から11時までの約1時間、久万高原町の西谷健康増進センターにおいて、地元選出国會議員を始めとして、愛媛・高知の両県知事(代理:副知事)、久万高原・梶原の両町長、両県會議員、両町議員、地元関係者、地権者、工事関係者ら総勢約300名の出席のもと、開通式典を盛大に執り行いました。

式典では、足立局長より「最大の難関であった地芳トンネルを含む4.0km区間が開通となり、これによって地芳道路全区間の事業が完成となった。これも関係者の皆様方のご支援、ご協力の賜であり心からお礼を申し上げます。」との式辞のあと、来賓の祝辞、主催者として愛媛・高知両県知事(代理:副知事)の挨拶、中村河川国道事務所から工事経過報告、祝電披露を行ったのち、地元住民からの謝辞があり、式典を締めくくりました。

その後、場所を地芳トンネル愛媛県側坑口付近に移動し、開通セレモニーを執り行いました。

開通セレモニーは、久万高原町の「柳谷八釜龍神太鼓」の勇壮な和太鼓演奏の出迎いで始まり、会場が大いに盛り上がったのち、関係者によるテープカット、くす玉開披が執り行われ、同時に柳谷小学校と梶原小学校の児童約30名によって紙風船とばしが行われると、出席者から喝采が上がりました。

またその後、開通セレモニーに参加した全員が乗用車やバスに乗り、愛媛県警の白バイの先導のもと、高知県側に向けて開通パレードを行いました。高知県側の沿道では開通を喜んだ地元住民が手旗を振って出迎えてくれるなど、地域をあげての盛大な式典となりました。

今回の開通によって、これまで狭小な幅員や急な道路勾配、急カーブの連続であり、冬期にはたびたび積雪により通行止めとなっていた愛媛・高知の県境部の国道440号が2車線となり、約24km あった峠道も約9kmになったことから、34分の時間短縮が図られました。

また、道路の標高も400m近く下がったことから、積雪による通行止めがほぼ解消され、久万高原町と梶原町の相互の二次医療施設へのアクセス向上や消防活動の充実が図られることとなると共に、両町はもとより愛媛県と高知県の交流がより活発となることが期待されます。



▲足立局長の式辞



▲テープカット・くす玉開披



▲横断幕と手旗で開通を祝っていただいた地元梶原町の皆様

四国圏広域地方計画の推進に向けた取組発表会について

— 四国圏広域地方計画推進室 —

12月9日（木）四国圏広域地方計画協議会（事務局：四国圏広域地方計画推進室（四国地方整備局、四国運輸局））の主催において、四国圏広域地方計画の推進に向けた取組発表会を～四国が元気になる地域づくりを目指して～と題して、高松サポート合同庁舎（アイホール）において開催し、四国4県、市町村、経済団体、NPO等民間団体、国の地方出先機関等より約130名の方にご参加いただきました。



【発表会状況】

発表課題は、

(1) 四国インバウンド観光の取組

「四国への訪日旅行促進状況」

四国ツーリズム創造機構 事業推進本部長 平尾政彦 氏

(2) 地域資源を活かした取組

「そうだ、葉っぱを売ろう！」

株式会社いろどり 代表取締役 横石知二 氏

(3) まちづくりの取組

「人口減、高齢化社会に対応した新しいまちづくりと新しい地方自治組織の形成」

高松丸亀町商店街振興組合 理事長 古川康造 氏

(4) 歴史的風致維持の取組

「佐川町の伝統的町並み保存と活用について」

NPO法人佐川くろがねの会 理事長 竹村 脩 氏

上記4つの発表では、四国内における連携した広域的な取り組みや、地域のきらり光る元気な活動をご紹介いただきました。

そして、四国内での同じような課題をもつ他地域への連帯意識の醸成や活動のきっかけとなる先導事例として参考となるとともに、この機会を通じ四国地域に活動が拡大し広域的な取り組みへと展開し、四国の弱みを強みに導く原動力になるような内容でした。

本計画の推進にあたっては、四国圏広域地方計画協議会の構成員を始め関係機関が、十分に連携・協働を図りつつ、本計画の描く四国圏域の将来像の実現に向けた各種施策の展開・具体化を推進していくことが必要と考えております。

※ 四国圏広域地方計画とは、今後概ね10ヶ年間にわたる四国圏の国土形成に関する基本的な方針、目標及び広域の見地から必要と認められる主要な施策をとりまとめた四国圏の将来ビジョンです。

【四国圏広域地方計画に関するHP】

<http://www.skr.mlit.go.jp/kikaku/kokudokeikaku/index.html>

【発表者】



平尾 氏



横石 氏



古川 氏



竹村 氏

「ふれあい四国路2010 in 東みよし町」開催

—徳島河川国道事務所—

四国の道路清掃、美化のボランティアを総称して「ふれあい四国路」といいます。

「ふれあい四国路」に参加する団体が年1回集まり、貴重な経験や意見等の情報を交換し、今後の活動に活かすための10回目の交流会が徳島県三好郡東みよし町で10月23日に開催されました。当日は天候にも恵まれ、総勢約300人（催し等関係者も含む）の参加がありました。

オープニングでは、四国各地からの参加者を歓迎し地元文化活動を行っている「アミンダみよし」のオカリナ演奏が奏でられた後に、実行委員会の川原実行委員長と東みよし町長の挨拶で始まりました。

最初は各県のボランティア団体の実績発表があり、高知県は「田野町花いっぱい推進会」、愛媛県は「市民で灯そう10万の光り実行委員会」、香川県は「NPO 牟礼香川グリーンクラブ」、徳島県は「NPO 神山さくら会」と今回開催地の団体である「稲持つくし会」がそれぞれ実績発表を行いました。

花植えは段階的な目的であり最終は地域おこしが目的であることや参加人数減少の苦悩、強制的ではなく家族ぐるみでの参加により楽しく行っている事例などが発表されました。

休憩をはさみ、地域伝統芸能で阿波木偶箱廻しを復活する会による「三番叟まわし」「箱廻し」「えびすまわし」が披露され、各参加者は福を授かりました。

次に、徳島大学 矢部准教授をコーディネーターとし、実績発表を行っていただいた5団体をパネラーとしたパネルディスカッションで「みんなでせんで！地域おこし」をテーマに観客も巻き込みいろいろな意見等が交わされました。

予算が厳しい折の情勢と地域活動について、現在のボランティア・サポート・プログラム（VSP）の活動状況では基本的なことは出来ているが、世代交代と人員の広がり課題となっている中、どうすれば継続性を高められるか、関心を持って参加する意識、満足感をもてるような活動などについて意見が交わされました。

資金の苦勞については、日本では大多数が行政が支援の役割を果たしているが、中間支援センターを活用して、NPO資金の支援手続き（申請）ができることがコーディネーターから紹介され、参加者のみなさんは熱心に聴講されていました。

その後、引き継ぎが行われ、実行委員長と東みよし町長により、次回開催予定地の「高知県」に引き継がれました。

閉会の挨拶を徳島河川国道事務所長が行い、締めとして、サプライズで阿波踊りの乱舞により幕がおりました。

また、会場ロビーで販売していた地元団体が製造している地域物産品も好評な売れ行きとなりました。

参加された団体、実行委員会の皆様、関係機関の方々お疲れ様でした。

